

町外転出者のアンケートの結果

6月に実施した「最上町Uターン移住に関するアンケート」にご協力いただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。アンケートの内容について一部抜粋しお知らせいたします。

アンケートにご協力ありがとうございました！

町へUターンすることを少しでも考えたことがある人の割合は ⇒ **60.9%**

半数以上が地方移住を考えたことがあると回答しています。

地方に移住する際の懸念材料は？

- ・仕事の選択肢の少なさ
- ・収入が減る可能性がある
- ・住居を確保できるのか
- ・交通の便が悪い
- ・医療や福祉サービスの不足
- ・冬期間の除雪に関する不安 等々

また、「移住後の生活に関して、どのようなサポートがあればより安心できると思いますか？」といった問いでは、



1位 住宅支援



2位 子育て支援



3位 就労支援

これらの上位を占める回答以外にも、



今住んでいる人たちのコミュニティの場を設けたり、町のイベントが楽しいものであれば、移住者の住み心地も良くなると思います。集落との繋がりが強くなるようなコミュニティの場を移住者の方々と形成していくことが、一番のサポートだと思います。



田舎では、農業従事者は低賃金というイメージがとても強いと思います。そのため若者向けの就労支援などのサポートがあれば移住しやすいと思います。

また、自然を活かしたアクティビティが最上町で出来たら楽しそうだと思います。

などの回答をいただきました。

特集

最上町に住む

お盆の時期、多くの帰省者で町は賑わった。

その光景を通して、多くの人々が町から離れて暮らしていることを改めて感じさせられる。

昨今、地方への移住が注目される中、移住を決断した人々は何を思い、

その地での生活を選んだのだろうか――。

都会へ移り住む人がいる一方で、都会から地方へ移り住む人もいる。

移住者の視点から見た町の魅力や地方移住の利点について改めて探してみたい。

「最上町で生まれ育った若者は、進学や就職で一度県外へ出てしまうと、なかなか最上町に戻ってこない」、「町で生まれる子供が少ない」、「若者の担い手が不足している」――町民の方々の話の中で、そうした声がたびたび聞かれます。近年、全国の地方自治体では、人口減少や少子高齢化が大きな課題となつています。当町においても、平成17年（約20年前）の町の人口は約1万人でした。しかし、現在では約7千人と、約3割も人口が減少しています。高齢化率も4割を超え、町内の年間出生数は20名を下回り、非常に厳しい状況が続いています。

若者の進学や就職等による「最上町離れ」が加速する一方で、一度町を離れたものの帰郷して生活を再開する人や、都市部から親戚や知り合いのいない地方へ移り住む人もいます。

そうした移住者は、一体どのような動機で最上町へ移り住んできたのでしょうか。本特集では、Uターン（帰郷者）やIターン（移住者）の方々にお話を伺い、町の魅力や、人口減少・少子高齢化といった課題を解決するヒントを皆様と共有していきます。

Uターンしてみたら、想像していたよりも 地方暮らしが楽しいものになった



2006年 最上町 → 東京都 → 2011年 最上町
プロショップクリーニングマキ 牧 広太さん 38歳（向町3区）

牧さんは、家業であるクリーニング店を継ぐため、町へUターンしてきた移住者の一人です。
高校卒業と同時にクリーニング師の資格取得のため都会で生活していましたが、牧さんがUターンすることになったきっかけや、地方暮らしをどう思っているのかを伺いました。

都会は学ぶ場所 資格を取るために上京

クリーニング師を目指し、最上町を離れ5年間東京で過ごしました。クリーニング師の資格取得は、養成所で1年間勉強が必要で、日中仕事をして、夕方から養成所での学習を行うような生活をしていました。そして、資格取得後も東京の会社で働いていました。

今考えてみると、当時は最上町に戻るなんて忘れて、ずっと都会暮らしでも良いと思うこともありました。特に、最新のクリーニング方法については都会の方が進んでいて、「もっとクリーニング師として腕を磨きたい、仕事の勉強をしたい」と思うようになっていました。中でも一番興味があつたのは「シミ抜き」の技術で、今現在も仕事で活かせて

います。当時は自ら進んで学習費を払って学んでいました。
都会に出て良かったことは、社会の見え方が変わったこと。いろんな経験や、物事を見る方法を知ったおかげで、今の仕事や生活に役立っています。また、自分自身が成長できて、華やかで楽しい場所です。しかし、生活していくには、都会はお金が掛かりますよね。

世代交代のため Uターンすることに

上京する際に、地元に戻ることを前提にクリーニング師の資格を取りにいった訳ですが、都会にいて4年目になり「ずっとこつちにいてもいいかな」と思い始めていた頃でした。両親と祖父とで経営していた実家のクリーニング店が、祖父の高齢化を機に規模縮小するという話が浮上していました。その頃は、何度か最上町と東京を往復していて、家業の今後についてや私自身の今後の進むべき道について非常に迷いました。

実家の店を今後も続けていくために必要なこと、それは、自分が実家に帰りクリーニング師としての仕事をすることだと思い、最終的にUターンを決断しました。今では両親と三人で店をやっておりますが、それと同時に、商工会青年部やボクシングのコーチ、地元の祭りの実行委員など、自分が活動できる可能な範囲で、町の活性化に協力させていただいております。

都会から帰ってくる前は、「面白

いことや面白い場所なんてないんだろうな」と思ってた帰って来たのですが、意外にも現在では地方暮らしを楽しめています。

Uターンしてみてもわかる 田舎暮らしの良さ

高校生の頃は、まだまだ経験や知識が浅く、物事の見方も甘いところがあり、田舎暮らしの良さに気付けずにはいましたが、地方暮らしの最大の魅力は、都市部ではなかなか経験できない、地域コミュニティのつながりです。町の人たちとの絆を深めることは田舎暮らしの楽しみでもあります。

また、田舎でしか見ることで

ない風景や景観は都会にはないところ。自然や四季を身近に感じながら生活ができることも、地方暮らしのメリットではないでしょうか。それから、実際にUターンしてみると意外にも田舎が住みやすいことに気付きます。例えば、地方暮らしは、車があればどこへでも気軽に移動できます。都会では車を持たない人も多くいるため、地方のように行きたい場所にいつでも気軽に移動することは難しいと感じます。ただ、ただ行ったことのない場所は沢山あるので、行ってみたいとも思います。

また、私自身、まだまだ町のことを知らないとも感じます。集落の色んなイベントがあることも、大人になって10年程住んでも、まだ行

町で暮らし続ける限り、そういった面白そうなイベントや行事は、自分の可能性を広げるためにも、行ってみたいと思っています。田舎に住んでいるなら、田舎を満喫し、楽しみながら生活したいですね。

移住を考えている方へ

今現在移住を考えている人に、地方暮らしも案外悪いものではないことを伝えたいです。もちろん、車社会なので車を運転しなければいけないことや、冬期間に雪が積もるので、除雪をしなければいけないことなど、多少の妥協は必要となりますが、Uターンして実家で暮らせば、都会で生活するよりもお金はかかりません。

また、田舎特有の地域の人たちとの深い関わりは、他人をあまり気にしない都会とは違い、人間の温かさを感じて、楽しく感じる人もいます。ではないかと思っています。私自身、最上祭りなどのイベントに関わって、イベントを地域の人たちや若い人たちと一緒にやっていることも、Uターンしてみても地方暮らしが楽しいと思える理由の一つになっています。

「最上町には何もない」ということで都会や地方都市に転出する方もいると思いますが、今住んでいる高校生や中学生には、自分なりに町の良さや魅力を見つけて都会へ住むのも悪くないと思います。町から一旦



最上祭りの様子。牧さんは神輿の先導役として天狗に衣装し、地域のイベントの役員として参加しています。

外に出てみて、都会と田舎を比較し、自分のこれからの進むべき道を選択してほしいです。

私たちUターンした人たちが出来ることは、そうした人たちに、最上町にとどまってもらえたり、一旦都会へ出てUターンしようと思えるような、田舎の楽しさや魅力を伝えることだと思っています。自ら進んでイベントを企画したいとかではないのですが、町の若い人たちと一緒にそういったことを考えて企画出来たら、もっと楽しいだろうなと思います。

是非Uターンはお勧めだということではないですが、選択肢として実家に戻ったり、地方暮らしに過度の期待をしないで移住すると、案外想像していた田舎の生活よりも楽しいものになると私は思います。

就職してから初めて自分で作ったお米を、ここまで育ててくれた両親に感謝の気持ちを込めて贈りました。「美味しい」という連絡をもら

地方から農作物の 美味しさを届けたい

最上町で生活していて大変なのは、冬期間の除雪と運転です。東京都は雪が積もらないので、地方移住した最初のころは、雪が降ることに対してワクワクした気持ちになったりもしましたが、1か月くらいすると、この地域に住む方々の雪に対する辛抱強さを尊敬しました。私自身、冬期間に雪が積もる地域に住むのは、はじめての経験でしたので、除雪を近所の方から手伝っていたりしながら過ごしました。

冬期間は 初めてのことに 尽くし

元々都会にすんでいて、大自然の田舎を求めて地方に移住したので、米えている場所に行くのは遊びに行く時くらいで問題なく生活できますし、私は今の環境に満足しています。

田舎で描く新しい暮らし 若者が挑む農業の世界



2024年
東京都 → → → 最上町

農業生産法人 もがみグリーンファーム 株式会社

のりひさ
浅水 規玖さん 19歳（向町3区）



い嬉しさもありましたが、もともと農業にのめり込みたいという気持ちが増えました。将来的には自分の田畑を所有し、多くの方々へ最上町の農作物の美味しさを届けたいと思っています。

現在、米価格が上昇基調にあり、農業の重要性が増してきています。田舎では耕作放棄地も増えていると聞きますので、そういった問題にも向き合いながら、「ピンチはチャンス」と思いながら、米作りに励んでいます。

これから移住を考えている方や田舎で農業を考えている方、最上町の皆さんは親切にいろんなことを教えてくださる優しい人たちがたくさんいます。私にとって最上町は、お勤めの地方の移住先です。すこいところなので是非最上町に来てくださ

移住前は都会に住んでいた浅水規玖さん。田舎暮らしと農業への憧れがあり、最上町へ移住を決意しました。今では、米価高騰により、農業が非常に注目されています。

浅水さんの移住についての動機や、農業についての思いを伺いました。

この地に住む人の 温かさを感じて

私がどうして最上町へ移住したのか――。それは「町に住む人の温かさ」に魅了されたからです。そもそも何故私が、田舎で農業をやっているのかと言うことですが、きっかけは祖父の農作業を手伝ったこと。自分で育てて収穫したものを食べたときの感動は忘れませんでした。

また、自分が育てた作物を他人から「美味しい」と言ってもらえた時は農業のやりがいを感じました。

東京都の農業高校在学時には、卒業後に農業一筋と決めていたので、迷いはありませんでした。就職活動中、山形県最上町に所在を置く「もがみグリーンファーム」という企業に目が留まり、展開する耕作面積が広大であることを知りすぐさま職場見学をさせてもらいました。

その時に案内してくれた社員の方や、町の人たちと実際に関わってみたら、とても親切にしてくださったことを今でも覚えています。田舎に

地方で農業を営む若者が 少しでも増えてほしい

全国各地で農業従事者の担い手不足が深刻化しています。近年の物価高騰による農業用機械や資材の高値から更新が出来ないため、農業から手を引く方々が増えているそうです。町でも担い手が不足し、耕作放棄地が増加傾向にあります。こうした問題の解消を目指す、農業生産法人もがみグリーンファーム株式会社で取締役を務める大場宏利氏に話を伺いました。

一人でも多くの若い 農家が活躍してほしい

少子高齢化が進む中、田舎はどの職種も担い手不足。農業は特に高齢の方々が今までを支えてきてくださったこともあって、非常に厳しい状況となっています。

しかし、移住した若者、それから町外から農業の働き手として通う若者たちが町の農業を支えてくれることで、地元の若い人たちともに活気のある町の農業が復活するのではないかと考えています。

こうした状況こそが、「私も農業

は都会にはない「人と人とのつながり」があり、人の温かさを感じられるところが魅力だと思います。

地方移住は住めば都

もともと、最上町とは縁もゆかりもなかった訳ですが、移住する前のイメージは、田園風景が広がる田舎という感じでした。また、都会に比べて便利さなどは劣るだろうと考えていましたが、実際に住んでみると意外と住みやすかったです。ここは仙台方面にも、山形方面にも2時間から車で移動することが可能で、車社会での交通の便はいいと感じます。



をやってみたい」といったことにつながり、担い手不足や耕作放棄地解消に繋がるのではないかと考えています。

今回の移住についての内容ですが、国や町の支援として、住む場所や移住支援金などスムーズに手続きができるような行政の窓口や支援があると、移住者はより地方に移住しやすくなると思います。そうした取り組みにより、空き家問題の解消や、少子高齢化に少しでも良い影響が出るのではないかと思います。

今の町の農業には若い人たちの力が絶対必要です。若手の農業従事者がどんどん増えて、町の農業を盛り上げてほしいです。今最上町に住んでいる人たちも含め、一人でも多くの若者が、この町を舞台に活躍してくれることを願っています。



農業生産法人もがみグリーンファーム株式会社 取締役 大場宏利氏

移住を希望・検討されている方が町に興味・関心を持てるように様々な媒体で情報を発信

ガイドブック「MOGAMI LIFE」 ポータルサイト「MOGAMI LIFE」



最上町の概要や暮らし・子育て・住まいなどを紹介した冊子を作成しました。町ホームページにも掲載しています。

ガイドブック
MOGAMI LIFE



自然豊かな環境での最上町ならではの暮らしや魅力を紹介しており、先輩移住者のお話を交えた実際の生活のリアルな声をお届けしています。

ポータルサイト
MOGAMI LIFE



移住相談会などのイベントや、移住体験会なども実施しています

移住相談会で町を PR

町では「もがさぼ」と共同で、首都圏で開催される移住相談イベントへ参加し、移住を希望されている方と直接お会いし、移住の相談や最上町の PR を行っています。



これまでの実績

やまがた移住・交流フェア



ふるさと山形移住・定住推進センターと山形県が主催となっている移住相談イベントです。県内市町村の他、山形県のような支援団体が出展しました。今年は 264 組 425 名の方が来場し、各市町村等の出展ブースで相談されました。

東北移住＆つながり大相談会



認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センターが主催となっている移住相談イベントです。東北6県・120 を超える市町村・団体が出展した大規模イベントとなりました。当日は 302 組 462 名の方が来場されています。



豊かな自然や、
地域コミュニティに関りながら

移住を 楽しむ

移住を考える際、都市の喧騒を離れ、自然豊かな地域で新たな生活をスタートすることは大きな魅力があります。澄んだ空気、四季折々に変化する美しい景色、地元の野菜や果物を味わう贅沢な暮らしは、多くの人々にとって憧れのライフスタイルと言えるでしょう。

しかし、移住生活の真髄は、単に自然を満喫することだけではありません。地域コミュニティとの温かいつながりが、その生活をさらに充実したものにしていきます。地方では、近所同士で助け合う文化や、伝統行事を通じて交流する機会が豊富にあります。祭りやイベントでは、地元集落の方々と心を通わせながら地域の歴史や文化を学ぶこともでき、これが移住者にとって新たな発見や喜びになると考えます。また、地元の方々とともに農業などを体験することで、自然の恵みへの感謝を実感できるのも地方ならではの魅力です。

移住には課題も伴い、住居探しや移住者の子育て支援、仕事の確保といった現実的な問題にも直面します。しかし、地域コミュニティとの絆を築くことで情報を取り入れたり、移住を支援してくれる団体や行政に相談してみることで乗り越えられるのではないのでしょうか。また、町への移住・Uターンを増やすためには、今住んでいる人たちが、この町での暮らしを楽しんでいることが大事です。

豊かな自然と地域コミュニティに支えられた移住生活は、ただの「住み替え」ではなく、新たな人生への挑戦であり、心豊かな生活のスタートです。地域の方々と共に歩むことで、自然と調和し真の幸福を見つけられる移住生活を、ぜひとも楽しんで欲しいと心から思います。

町の移住支援をご紹介します

最上町では町外から移住されてきた方が、最上町で求めている暮らしに近づけるように様々な支援を行なっています。

町外に住まわれているご家族やご親戚・ご友人が、最上町への移住をご検討されていましたら、ぜひこれらの支援情報をお伝えください。



地方移住のアドバイザー
移住定住支援コーディネーター
「もがさぼ」



もがさぼへ相談を希望される方は Instagram からお問い合わせください。（※移住定住に関する情報提供も行っています）

もがさぼ



田舎暮らしがしたい！と思っても、新しい場所での暮らしには不安も多く、誰に相談したらいいのかもわからない……。そんな方をサポートするのが、移住定住コーディネーター「【通称】もがさぼ」です。町が民間業者へ委託し、移住者の移住前と移住後のサポートを行っています。移住経験者が担当しているため、移住者が気兼ねなく相談できる体制となっています。